

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】平成22年12月16日 (2010.12.16)

【公開番号】特開2009-109818(P2009-109818A)

【公開日】平成21年5月21日 (2009.5.21)

【年通号数】公開・登録公報2009-020

【出願番号】特願2007-283133(P2007-283133)

【国際特許分類】

G 0 2 B 21/06 (2006.01)

G 0 2 B 5/28 (2006.01)

G 0 2 B 5/26 (2006.01)

【F I】

G 0 2 B 21/06

G 0 2 B 5/28

G 0 2 B 5/26

【手続補正書】

【提出日】平成22年10月27日 (2010.10.27)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

励起光を出射するレーザ光源部と、
前記励起光を標本へ集光する集光部と、
 前記レーザ光源部と前記集光部との間に配置され、前記励起光を前記集光部へ入射させ
ると共に、前記標本で発生した蛍光を検出部へ導くダイクロイックミラーと、
を備えたレーザ励起蛍光顕微鏡において、
前記ダイクロイックミラーに対する前記励起光及び前記蛍光の入射角度 は、 $10^\circ <$
 $< 15^\circ$ の式を満たす
 ことを特徴とするレーザ励起蛍光顕微鏡。

【請求項 2】

請求項 1 に記載のレーザ励起蛍光顕微鏡において、
前記ダイクロイックミラーに対する前記励起光及び前記蛍光の入射角度 は、
 12° である
 ことを特徴とするレーザ励起蛍光顕微鏡。

【請求項 3】

請求項 1 又は請求項 2 に記載のレーザ励起蛍光顕微鏡において、
前記ダイクロイックミラーの分離膜は、
誘電体多層膜からなる
 ことを特徴とするレーザ励起蛍光顕微鏡。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

本発明のレーザ励起蛍光顕微鏡は、励起光を出射するレーザ光源部と、前記励起光を標本へ集光する集光部と、前記レーザ光源部と前記集光部との間に配置され、前記励起光を前記集光部へ入射させると共に、前記標本で発生した蛍光を検出部へ導くダイクロイックミラーと、を備えたレーザ励起蛍光顕微鏡において、前記ダイクロイックミラーに対する前記励起光及び前記蛍光の入射角度は、 $10^{\circ} < \theta < 15^{\circ}$ の式を満たすことを特徴とする。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

さらに、前記ダイクロイックミラーに対する前記励起光及び前記蛍光の入射角度は、 12° であることが望ましい。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

また、本発明のレーザ励起蛍光顕微鏡において、前記ダイクロイックミラーの分離膜は、誘電体多層膜からなることが望ましい。